輝城祭通信　第２号

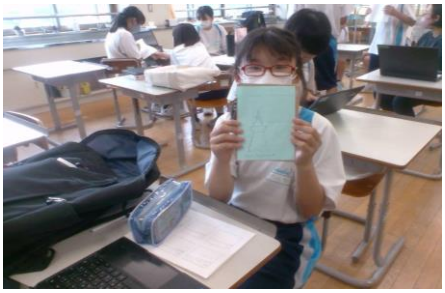
R5 年9月12日(火)

輝城祭広報部門1年

☆輝城祭の部門活動の様子

企画部門

全校制作



美文部門

吹奏楽部門

体育部門

展示装飾部門

文化部門

各部門の意気込み

［企画部門］
事務局では、テーマ「関わり」のもと、全校の一人でも多くの人に関わりについて考えてもらえるよう、活動してきました。事務局としての、オープニング・エンディング等も
関わりについて深く考えられるものとなっています。コロナ前の輝城祭を知らない世代だからこそ、様々なことに挑戦し、当日、成長できたと言える人が一人でも増えるような姿を目指していきます。
［美術文芸部門］
美術部では、部員全員でテーマ「関わり」を意識し、一つの大きな作品を作り上げられるように活動してきました。短い期間で、たくさんのイラストやセリフを考えるのは大変でしたが、本番では全員が気持ちを一つにして、関わり合いながら見聞きしている人に感動させられるよう、部員全員で頑張っていきます。
［吹奏楽部門］
吹奏楽部は、部員同士の関わりを大切にしながら練習に取り組んできました。
短い輝城祭取組期間の中で曲を仕上げるのはとても大変でしたが、本番は気持ちを一つに
し、聞いている人に感動を与えられる演奏を目指します。
［展示装飾部門］
展示装飾では関わりのテーマを意識し、互いにアドバイスをしながら活動に取り組んできました。体育館にいても飽きない展示装飾をします。関わりのテーマの元学年関係なく取り組むことや来た人の思い出に残るような展示装飾をすることを目指します。
［文化部門］
文化部門では、テーマ「関わり」のもと、文化の部で一人一人が輝けるステージを作ってきました。進行や裏方など仕事を覚えるのが大変でしたが、部門の仲間と協力してきました。本番では全校の人たちが楽しく文化の部を終えられるよう、頑張っていきます。
［体育部門］　全員が楽しく、安全にできる体育の部をつくる
体育部門では、一人ひとりが自分の役割を理解し、考えて行動することを目標に活動してきました。全員が楽しく、安全な体育の部になるように目指します。
［全校制作部門］
全校制作部門は、活動の中で学年関係なく関わることを大切にしたいです。また、一人一人が役割を持ち、全校制作部門全員で１つの作品を創り上げたいです。全校の皆さんにも協力してもらい、出来上がった作品を見た人に全校の関わりが伝わる作品をつくれるよう頑張っています。
［広報部門］
広報部門では、テーマ「関わり」を意識して広報活動をしてきました。幕間でも学年関係なくグループを作ったりして撮影などを行いました。本番では、会場全体を盛り上げていきたいです。

私が「関わり」の大切さを感じた瞬間（企画部門企画）

・野球でピンチの時に皆で「止めてやる」という気持ちでアウトにした瞬間。１A 佐野誠志郎さん
・近所のお年寄りの人に元気よくあいさつしたりすると、喜んでもらえて、何度もあいさつをしてくれるようになったり、話しかけてもらえて時。１B 新井紗良さん
・部活で後輩にアドバイスをし、「ありがとう」と言われ、その後輩が上達したのを見た時。2A 坂本悠真さん
・私が不安に思ったことを家族に伝えたら、お父さんとお母さんが「大丈夫だよ。」と言ってくれたとき。2B 佐々木絆那さん
・２年生のとき、合唱のパートリーダーをしていて１人で色んな事をしていて、大変になってしまったときに合唱委員ではない、同じパートの人や、同じ合唱委員の人が助けてくれた。3A 諏訪華佳さん
・ボランティア活動をしていて、集まった数などを聞き、こんなにも集まって、これくらい役にたつんだなと感じた。　3B 望月優さん